

## 令和5年度「知事と市町長の円卓対話」（度会町）概要

- 1 対話市町 度会町（度会町長 なかむら 中村 ただひこ 忠彦）
- 2 対話日時 令和5年12月19日（火）10時20分から11時00分
- 3 対話場所 度会町役場 大会議室（度会郡度会町棚橋1215-1）
- 4 視察場所 宮リバー度会ソーラーパーク
- 5 対話項目
  - （1）脱炭素に向けた取組について
  - （2）人口減少対策について
  - （3）道路改良、維持管理について

### 6 対話概要

#### 対話項目（1）脱炭素に向けた取組について

（町長）

一つ目のテーマが脱炭素に向けた取り組みについて、当町の状況や新たな動きなどについてご説明をいたしたいと思います。

世界中では脱炭素社会に向けた動きが活発になり、脱炭素やゼロカーボンという言葉もよく耳にするようになりました。当町におきましては 2017 年に度会ウィンドファームが稼働。今年5月には、宮リバー度会ソーラーパークが運転を開始いたしました。2021 年4月には、近隣の6町が共同で「ゼロカーボンシティ宣言」を行い、広域的に脱炭素に向けて動き出したところであります。

このような動きもありまして近年では、再エネの町として認識されつつあるように感じています。

まず我々から声を上げようということで、6町が合同で宣言をいたしました。社会全体で、脱炭素に向けた動きが加速する中、これをチャンスととらえております。具体的な動きといたしまして、今年6月に環境省の二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金の採択を受けまして、役場庁舎の ZEB 化とレジリエンス強化を同時に実現する事業を進めております。また多気町と共同で応募した「脱炭素先行地域」につきましては、残念ながら今回は採択に至りませんでした。多くの知見や企業との繋がりができました。

これらを生かして、全国のモデルとなれるよう模索しながら進めていこうと思っています。脱炭素は大きな話でございますので、進めていく中で単独の町でできることは限られていると感じております。近隣自治体や民間企業、そして三重県とタッグを組んで取り組んでいかなければならないと改めて感じておりますので、連携を密にし、オール三重で進めていただきますようお願いをいたします。

(知事)

カーボンニュートラルについて話をさせていただきたいと思います。

海が大変な状況になっています。海水温の上昇、三重県にとっても大きな被害が出ています。一つは、今まで取れていた海産物が取れない、100年前と比べると水温が1℃以上上がっているということで、海の生物にとって水温1℃の年間平均水温の変化は影響が大きく、今までは住めていたのに住めなくなる。

また、今年も台風7号が来ました。度会町は、被害に遭われましたけれど、幸いにも人命の被害がなかったからよかったです。最近、大型台風、豪雨、これが当たり前になっています。これも実は、海水温の上昇。海水温の上昇、どうして起こるか、大気温度が上がってるからです。大気温度がどうして上がるかは地球温暖化。CO<sub>2</sub>を人類が出しすぎたということです。子どもや孫の時代は大変なことになっていて、COPがその問題を解決しようと世界中が集まっています。一番CO<sub>2</sub>出してるのは、火力発電です。日本も発電ベースロード比率、発電量でいうと、火力が約73%、自然エネルギーが10%です。その中でこの10%のうち、太陽光が9%。風力が1%。まだまだ自然エネルギー、ヨーロッパに比べると低いです。三重県でいうと、川越に火力がありますので、火力が81%。日本全体より10%ぐらい高い。自然エネルギーが15%、これも日本全体より高いですけど、太陽光が12%。これはもう度会町さんが、大分占めておられると思いますが、あと風力が3%という状況です。

これから火力は、この間もCOPの会議で総理も表明されましたけど、もう世界中からなくしていこうということになっている。それに代わるものとしても原子力と自然再生エネルギーしかない。水力はもうこれから余地がほとんどない。日本は原子力をどんどん作っていく感じにはならないので、核融合の発電ができるまでの間はそれこそ5、60年かかると言われてますので、それまでの間は自然再生エネルギーを伸ばしていくしかない。

三重県知事に就任してから、このエネルギーの話は絶対、問題になってくるので、カーボンニュートラルを目指す「ゼロエミッションみえ」プロジェクトを立ち上げまして、令和4年3月、ゼロエミッション推進本部を立ち上げました。今年3月、「ゼロエミッションみえ」プロジェクト推進方針を策定し、その方針に従って、9か月くらい事業を進めているところです。

柱は6つありまして、その主な柱を言いますと、1つはカーボンニュートラルへの課題が大きいコンビナートです。四日市のコンビナートはCO<sub>2</sub>も排出しますし、原料に石油、原油を使っている、石油製品を使っている。それをどう変えていくかということです。

もう一つは三重県の主要な産業である自動車産業ですけど、内燃機関からEV電気自動車に変わっていきます。それをスムーズに変えていかないと。今のエンジンの車は部品が大体1台で3万点ある。電気自動車になると2万点に変わります。1万点の部品がいらないようになる。そうすると、部品製造業に携わってお

られる方々が失業してしまうので、何とかしていかないといけないということで、今、その課題に対応しているところです。

それからもう一つは自然再生エネルギーをどうやって導入していくかです。例えば、洋上風力を取り上げてみると、今、ヨーロッパにおいても洋上風力がどんどん立ち上がってます。私も視察に行きましたが、日本でも、長崎県五島列島に洋上風力の実験風車があります。ヨーロッパでは、遠浅の海で風がよく吹いてるので、海底にそのまま柱を据え付ける着床式の風力発電の風車があります。日本の場合は、日本海側はまだそれでいいんですけど、太平洋側に設置をするときには、水深が深くなっているため、浮体式と言って、鎖などで海底に固定して、本体は180メートルぐらいの柱で、それが浮いているものを作っていかなければならない。まだこれの完璧なもの、大きいものを作るのはこれから技術開発していかなければならない。今長崎にあるのは2メガの風車1基。ただ、世界的には12メガとか14メガという、大きなのが出ていますので、将来的にそういう形で作っていかなければなりません。その理由は、電力は地産地消だからです。遠いところまで持ってくと、それだけ電気が低減していく。送電線を走ってる間にどんどんなくなっていく。電気を効率的に使うためには、消費地に近いところで電気を作る必要がある。風力発電の場合は、相当な部品数になりますから、雇用の担保に繋がるというポイントもあります。今、三重県では、そういったことを検討しているところです。

先ほど太陽光発電施設を視察させていただきました。非常に大きな発電量で60メガワットで、発電施設もかなりのものであるということです。固定資産税も入ってきますので、町の収入として割と大きいものではないかと思えます。

今後、どうやってそれを活用していくかという話があると思います。一つは、山梨に太陽光発電を視察してきたのですが、その太陽光発電で起こした電気を使って、水を酸素と水素に分解し、作った水素を東京に運んでいます。これからのカーボンニュートラルの大きな流れの中で、水素が使われる時代になってきます。車だけではなく、家庭でも工場でも使われるようになってくると思います。そうになると、発電施設があるところで水素を作ると、消費しないといけないわけですが、山梨県では、東京に近いので、大きな車で水素を運んでいるのです。福島県も同じです。三重県としては、名古屋や大阪は近いので、水素を作って運んでいけるかどうかなど、長い目で見て検討をしておくのも一つのやり方かなと思っています。いずれにしてもよく相談させていただきながら進めていきたいなと思っています。

(町長)

脱炭素は、やはりみんなが個人的にでもできることを、ちょっとずつでもやっていかなければいけないという考え方を、ぜひ三重県さんのリーダーシップをお願いしたいなと思います。

また度会町では脱炭素ではございませんが、海洋ごみの問題にも取り組んでいます。環境省からローカル・ブルー・オーシャンに採択をされましたので、海のない町ではありますが、内陸部からゴミを減らしていこうということもやっておりますので、紹介をさせていただきたいと思います。

## 対話項目（２）人口減少対策について

（町長）

日本の人口が減少する中、三重県においても、2007年をピークに減少局面にあることは認識をしております。度会町も社人研の推計では、現在の7800人が2060年には3803人になるという数字があり、これはまさに静かに進行する脅威であります。

そんな中、人口の増加を目指すことは現実的ではなく、いかに減少を緩和するか、活気を生み出すかといった視点で考えています。これまでの人口増加を前提とした社会の仕組みを、減少フェーズに合わせた仕組みに変換していくことが必要になると思っています。

試行錯誤する中で、今年度県で創設された「みえ子ども・子育て応援総合補助金」は、大変ありがたいものであります。子育てや教育の分野は、私が最も重視したいところがございますので、この補助金は本当にありがたく思っています。最大限に活用したいので、ぜひ地域の実状に合った施策に柔軟に活用できるような制度設計をお願いしたいと思っています。

（知事）

2点目が人口減少、それから子育てについてのご指摘を町長さんからいただきました。

カーボンニュートラルもそうですけど、度会町さんは本当に熱心に対応されておられますし、中村町長も、環境省の補助金も使って何とか町に活気が出るようにやっておられるのは本当に頭が下がります。県としても最大限協力をさせていただきたいと思っていますところです。それは人口減少についても一緒でありまして、人口減少の話を申し上げます。

町長もご存知のところではありますが、直近の令和2年国勢調査で、三重県の人口が177万人で、現時点では、もっと減って173万人を少し切っている状況です。一番多かった時は平成19年で、180万人を超えてましたけど、その後どんどん減ってきている状態で、三重県だけに限った話ではなく、東京都を除く、沖縄は少し戻りつつあるようですが、日本全体下がってますから、ほとんどの都道府県で人口が減っているのが実態です。日本の人口は、今、1億2500万人で、20年も経たない2040年には1億1200万人となる想定です。1300万人も減少している計算であります。2065年には、9100万人と言われていることから、どんどん人口が減少していく状態です。

度会町の人口は 7800 人です。人口減少対策もいろいろ考えないといけない。2010 年や 2015 年は、度会町さんの合計特殊出生率は三重県の平均を上回っておりまして、1.6 ぐらいありました。ところが、25 歳から 29 歳の方々が転出していくということもありまして、合計特殊出生率下がってきている。これ実はどこでも起こってるものであります。先ほど申し上げましたけど、度会町さんの場合は令和 2 年と、平成 27 年で、人口減少率が 5 年間で 5.5%、県全体で 2.5%です。一番人口減少の幅の大きいところは 14%減っています。5年で 14%ですから、10年で 30%ぐらい。30年で 90%、単純計算をするとそうなりますので、何とかしないとイケないが、人口減少に歯止めがなかなか掛けられないので、その減り方を緩やかにしていくということです。

それと、人口減少の大きな問題は、若い女性がやっぱり転出していることです。令和 4 年統計では、三重県では転出と転入の差、転出超過が年間だいたい 4000 人で、15 歳から 29 歳の女性に限ると、転出の超過数が 2000 人です。若い女性 15 歳 29 歳で、半分の 2000 人ぐらいが転出しているとなると、男性の結婚相手もいなくなるという問題があります。その要因は、ジェンダーギャップという男性と女性の格差が、結構三重県にはあるのではないかとされています。フルタイムの労働者における給与差も、令和 3 年の厚生労働省の統計では、全国で 47 位と、男性と女性の差が一番大きい県となっています。何とかジェンダーギャップ、男性と女性の差っていうのを解消していかなければならないので、女性のお話を聞く会をこの 9 月から始めました。9 月、10 月、11 月と、毎回 1 時間半ぐらいお話、ウェブも含めて、私は毎回出席しています。職場で男性と女性の差があるとお答えになっておられる方もおられます。これから企業の方々とそのお話をし、企業にも考えていただかないといけないということをやってこうと思っています。

それぞれの市町で取り組みもされています。人口減少に関して言うと例えば移住を促進する。お試し移住みたいのをやっておられるところもありまして、空き家を確保して仕事も一定の期間は提供しようということをやっておられるところもあります。これから県もそういったところに力を入れていきたいと思っておりますが、まずは子育てをしっかりとやっていく。

中村町長には、本当に子育てに力を入れていただいてまして、今年度ですけど、子ども・子育て応援総合補助金を創りました。その前に人口減少対策方針は、8 月に 47 都道府県、三重県だけが今作ってる。多分そのあとの県も作っていくと思いますが、人口減少は大きな問題なので。この応援補助金は今年度 3 億円ということで始めさせていただいて、26 の市町から応募がありました。度会町さんも応募していただいています。熱心にいろんな新しい方策も考えていただいて、度会町さんへは 2 事業を採択させていただいています。これからもこういった取組をやっていかなければいけないと思っています。例えば、度会町さんでは、放課後児童クラブの指導員は手間がかかる業務ということで、採用する業務を支援させていただいていますし、また、保育所の環境整備をやってほしいとの要望があり、これも支援

させていただきます。

まずは、今年度初めての事業なので、各市、町がやろうとされておられることを、有識者の方々にご意見を聞いて、いいものについては選定させていただいております。これからいろいろな事業が出てくると思います。

例えば、保育所では、今まではおむつを保護者の方が持ってこなければいけなかったが、事業者に委託して、その委託料を町と県が2分の1ずつ出していく。育児用品をお届けする人を町が委託して、その育児用品のお届けをただけではなくて、子育てに関する悩みを聞いてくるということをしったりしています。そういったことをやっておられるところもあるので、今回採択した特徴的な事業をまとめた一覧表を見ていただいて、この取組は度会町で使えるのではないかという話がありましたら、ぜひご活用いただければと思います。我々も柔軟に対応させていただきます。

(町長)

また、地域の人々の暮らしが豊かになってくると、活躍してもらうことが一番と思っていますが、地域外の力を活用することも積極的に進めております。スーパーシティの参画企業や、地域おこし協力隊、地域活性化起業人など、今までの度会町になかった外部の力が町の原動力になりつつあり、デジ田構想や、脱炭素事業など、新たな事業にもチャレンジをしているところであります。中長期的な視点での魅力アップやにぎわいづくりといった土壌が少しずつでき始めてきたので、県や近隣自治体、企業と相互に連携し、人口減少に対応していきたいと考えています。

補助金も本当にありがたいと思います。しかし、町独自でやっている、今まですべて町の持ち出しでやっていた事業もできたら充ちいただくと、大変財政的には助かりますので、その辺のところをよろしく願いいたします。

地域新 Mass 創出推進事業では、医療だけでなく、買い物、また散髪屋さん、健康体操とかについて、地域で実証実験をやっていきます。

地域差は度会町にもありまして、店舗がある地区と無い地区ございまして、無い地区にはこうして出向いていき、にぎわいを作っていくということを取り組んでいますので、紹介させていただきたいと思います。

対話項目(3) 道路の改良、維持管理について

(町長)

度会町は、鉄道も国道もありません。そのため、生活には車やバスは必須で、幹線道路である県道が非常に重要な役割を果たしています。特に県道伊勢大宮線、伊勢南島線、サニーロードは、度会町にとって命の道となっています。

すでに冠水対策や拡幅、歩道の安全対策等順次対応していただき、住民の安心安全のためにご尽力をいただいておりますこと、お礼を申し上げます。今年度は6月と8月に警報が出る大雨があり、このとき冠水した県道はあります。9月

には、知事さん自ら被災現場を視察いただき、私と一緒に実際の現場を確認していただきました。

今まで要望しております問題の箇所は、解消に向けて取り組んでいただいていることだと思いますが、今後も継続した対応をお願いいたしたいと思います。

また先日、補正予算により、伊勢南島線の改良工事が前倒しになることを伺いました。本当にありがとうございます。三重県では一見知事のお陰で、過去最高額の補正がついたと認識しております。その一部を、この度会町に振り向けていただいて、本当にありがたく思っております。この場をお借りしてお礼申し上げたいと思います。

(知事)

まず日頃から、度会町中村町長を初めとして、町民の皆さん、命と暮らしを守るために活躍をしていただいています。本当に、この9月に、台風の後に現場視察したときも、本当にそれを肌身で感じました。ありがたいと思います。

やはり県道が大事だということも、現場に来させていただいてよくわかりました。伊勢大宮線、それから玉城南勢線、それから伊勢南島線で道路冠水が、大雨があると、宮川が氾濫したりして、大変な事態になります。それを計画的に、県の方で直させていただいているところですが、先ほど町長からお話いただきましたけど、令和5年度の補正予算が、過去5年間最大の230億、国交省から認めていただいておりますので、工事の前倒しができるようになりました。そのうちの重要なものが、伊勢南島線でございまして、令和7年度完成予定だったもの、1年と数ヶ月前倒しになりまして、令和6年度にできることになりました。これも町民の皆さんにとっては、ちょっと光が見えてくるような感じかなと思っております。

今後も、道路の改修についてはこれで終わりということはないものですから、皆さんからも、度会町長、度会町からのご要望もいただきながら、進めていきたいと思っております。

あとは民間ボランティアもご協力いただきまして本当にありがとうございます。この制度そもそも見直しをしまして、走り良い道路をどうやって実現していくか、皆さんと対応させていただきたい。

(町長)

度会町は本当に国道も走ってないですし、川も、県管理の一級河川ということで、三重県さんを一番頼りにしておりますので、ご尽力賜りたいと思います。